

「二重行政」4つのウソ

大阪維新の会と橋下徹市長は、「都」構想が必要だとする理由を「二重行政のムダ」の解消などとのべてています。ここには4つのウソがあります。



「財政が浮く」どころか ばく大なコスト増に

大阪府と大阪市にはいま「二重行政」といわれるような問題は存在しません。橋下市長は「ムダをはぶけば2700億円」といいますが、その具体的根拠は示せません。逆に「特別区」をつくれば680億円のコスト増で財政面ではマイナスになってしまいます。

大型開発は 政策の失敗

維新の会は「二重行政の失敗例」として「りんくうゲートタワービル」(府)

と「旧WTCビル」(市)をあげています。しかし、これはバブル期の大型開発政策の失敗であって、「二重行政」の問題とはなんの関係もありません。橋下市長自身、住民説明会では「二重行政と事業の失敗は別」と明言しています。(4月16日、西淀川区)

「二重行政の解消」どころか、 「三重行政」で サービスが低下

大阪市を解体すれば、「三重行政」が誕生することになります。府と「特別区」のほかに「部事務組合」という

役所ができ、国民健康保険、介護保険、水道などは、ここが担当。保険料の金額も減免制度も特別区では決められません。

本当の目的は、 「二人の指揮官」で やりたい放題するため

橋下市長の「二重行政解消」の目的は、大阪市を解体して「二人の指揮官」が強力な権限を持つことです。夢洲への賭博場(カジノ)の誘致では、地元住民や特別区が反対しても、知事の権限ですすめると明言しています。府や市が失敗した大型開発を、形を変えてやろうというのです。

「ムダ」(橋下市長)どころか 多くの方に利用されています

充実こそ 政治の責任です



We Say NO! 5.17 Osaka



2011年度

住吉市民病院 外来(延べ) 18,386人
入院(実数) 2,235人
救急搬送 523人



2011年

府立急性期・総合医療センター 外来(延べ) 12,379人
入院(実数) 2,080人
救急搬送 453人



年間利用者(2013年度)

大阪市中央体育館 (アマチュアスポーツ大会など)
約62万人



年間利用者(2013年度)

府立体育会館 (大相撲・ボクシング興行など)
約83万1千人



年間入館者数(2013年度)

大阪市立中央図書館 (大阪市西区)
約161万人



年間入館者数(2013年度)

府立中央図書館 (東大阪市)
約56万人



学生数(2014年)

市立大学 約8千3百人



学生数(2014年)

府立大学 約8千人